

第 38 回 CIGRE パリ大会報告

日 時： 2000 年 8 月 27 日（日）～9 月 1 日（金）

場 所： フランスパリ市の国際会議場

参加人数： 世界 80 ヶ国 2,494 名（日本からは 109 名）

記念講演： イタリア・パリス教授「CIGRE とともに歩んだ電気の世紀」
米国 AEP 会長ドレーパ氏「21 世紀の電力システム—さらなる発展への見通し」

論 文 数： 日本からの採択論文は 18 編であり，ドイツについて世界 2 位

展示（EXPO 2000）：

120 社が参加し 4 日間開催された。日本からは東京電力，東芝，三菱電機，日立製作所，日本ガイシの 5 社が出展し盛況であった。

本部役員選出：

Chamia 会長と東京大学名誉教授の関根トレジャラー（財務担当役員）が今回のパリ大会で退任し，新しい委員長はオーストラリア TransGrid の Croft 氏，トレジャラーはベルギーの De Pauw 氏に代わった。今回退任された関根先生は CIGRE の名誉会員になられた。

SC の技術討論：

各 SC が単独または合同でそれぞれいくつかの討議議題（優先議題と称す）を設定し，この議題に対応した論文を基に意見を述べる（Contribution）方式を採っている。誰でも自由に参加し意見を述べることができる。

パネルセッション・ワークショップ：

パネルセッションは，1) システムの効率運用を担う近代保守技術，2) 絶縁材料に与える電氣的ストレスの影響，の 2 つのパネルが開催された。またワークショップは，1) 電力技術教育（EPEE），2) 大外乱，3) 電磁環境，の 3 つのワークショップが開催された。

AORC 会議：

CIGRE では，従来のヨーロッパや先進国中心の活動に対し，世界をいくつかの地域に分け，各地域内での活動をもっと活発化することが計画されている。日本はアジア・オセアニア地域での貢献が期待されており，パリ大会に併せて第 2 回 AORC（Asia-Oceania Regional Council of CIGRE）会議を開催した。オーストラリア，韓国，マレーシア，タイ，

日本の国内委員長，幹事が参加し今後の進め方を討議した。

日本主催パーティ：

今回で4回目となるカクテルパーティを，パリ日本文化会館にて開催した。参加者数は，海外120名，日本人90名程度とほぼ2年前と同じで，Croft, Chamiaの新旧会長，Merlin技術委員長，Herouard事務総長，各国の理事などの要人を，日本からの参加者で出迎えた。エッフェル塔を眺めながらカクテルや談笑に花が咲いた。



パリ国際会議場での開会式

以 上